

報告書抄録

ふりがな	くずはら（C）いせき								
書名	葛原（C）遺跡								
副書名	宅地造成（葛原東五丁目）に伴う埋蔵文化財調査報告								
巻次									
シリーズ名	北九州市埋蔵文化財調査報告書								
シリーズ番号	第 636 集								
編著者名	中村利至久								
編集機関	（公財）北九州市芸術文化振興財団 埋蔵文化財調査室								
所在地	〒 803-0816 北九州市小倉北区金田一丁目 1 番 3 号 TEL 093-582-0941								
発行年月日	西暦 2025 年 3 月 31 日								
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地		コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号						
くずはら いせき 葛原（c）遺跡	ふくおかけんきたぎゅうしゅうし 福岡県北九州市 こくらみなみくずはらひがし 小倉南区葛原東 五丁目		40100		33° 50′ 16″39	130° 55′ 34″17	20230201 ～ 20230228	990	宅地造成（葛原東五丁目）に伴う埋蔵文化財発掘調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項		
葛原（c）遺跡		弥生時代終末 ～古墳時代 前期前半 中世	竪穴建物 溝状遺構 土坑 ピット		弥生時代終末～古墳時代前期前半の土器 中世の磁器、土師器、 瓦質土器				
要約	調査区は企救半島山地の南端裾部に位置している。このため、調査区を含む周辺の地形は北東側から南西側へ向かって低くなっている。調査区自体は上段、中段、下段の大きく三つの平坦面からなっていたが、これは時期不詳ながら人為的な削平によるものである。なお、この削平は本調査区の遺構が廃絶したのちに行われたものと考えている。 調査の結果、竪穴建物、溝状遺構、土坑、ピットを検出した。竪穴建物は出土遺物から弥生時代終末から古墳時代前期前半頃のものと考えられる。 その他の遺構については出土遺物の少なさから時期不詳なものが多い。しかしながら、時期比定可能な出土遺物には中世のものが散見されること、また、9号、14号溝状遺構は14世紀を前後する時期に比定しうることから、本遺跡の主体を占める時期は14世紀頃を一つの定点とする中世と判断できる。また、礫の集積が認められる土坑については、葛原(A)遺跡の調査事例から中世に遡る墓跡である可能性がある。 これらの調査成果は、周辺域における歴史的環境を考える上で重要である。								